



青木 千絵 / Chie Aoki, *BODY 21-1*, 2021

漆、麻布、スタイロフォーム / Lacquer and hemp cloth on polystyrene foam
H37 × W97 × D68 cm / H14.5 × W38.1 × D26.7 in.

青木 千絵

融体化する身体

内覧会：2021年11月12日（金）

会期：2021年11月13日（土） - 12月18日（土）

現代美術 艸居

〒605-0089 京都市東山区元町 381-2

開廊時間: 10:00AM-6:00PM 定休日: 日・月

Tel: 075-746-4456 info@gallery-sokyo.jp

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2

Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



プレスリリース

現代美術 艸居では「青木千絵 融体化する身体」を開催致します。青木は大学時代に漆と出会い、その不思議な質感を持つ艶に魅了され、漆での創作活動を始めました。「漆を用いることで、自分の中にある得体の知れない“何か”を表現できるのではないかと、漆のミステリアスな漆黒を普遍的な身体と融合させることにより、孤独や葛藤という人間の内面に渦巻く複雑な感情世界を表現してきました。具象と抽象が組み合わせられ、漆の奥深い艶が特徴的な作品は、人間表現の追求という青木の創作姿勢を明示してくれます。艸居での二度目の個展となる今展では、新作の漆作品4点と新作ドローイングを展示いたします。

青木が、今回展示される BODY シリーズの制作を始めて17年が経ちます。人間の内面世界を表現するために、具象である身体と抽象の塊を融合させた独自のスタイルは、漆という工芸材料を用いながらも、コンテンポラリーアートとしての意味合いを強く有しています。青木は自らの初期作品を表すのに当たり、他者からの遮断というキーワードを用いています。それは何層にも重なり強固になる漆のシェルターに守られた人の姿であり、鏡面のような漆の表面が周囲を跳ね返すバリアのようだったと振り返ります。また、その姿は何処か物哀しいポーズで、社会の中で感じる違和感から自分を守ろうとしているようでもありました。

それが近年では、上半身の姿が現れだし抽象部分と融体化するようになってきました。また、周囲を遮断するかのようだった初期作品とは異なり、周囲を吸収しながら鑑賞者と一体感を得るような存在へと変わり始めました。今展で展示される最新作「BODY 21-1」は、宇宙や生命といった大きな存在と自身が融合していくイメージで、身体を小さく丸め、深海に潜り込んでいく感覚を表現した作品です。漆黒の深い艶と乾漆技法（麻布や和紙を漆で貼り重ねて形作る方法）特有の穏やかな丸みを活かすため、足と塊の起伏のつながりが美しく見えるよう意識したことで、より身体の融体化が印象的な作品となっています。

宇宙や自然と比べた時の人間という存在の小ささ、しかし一方で複雑な精神世界を有し、尊くも儂い存在である人間。大きな変化の中で多様化がますます進む現代社会において、自分自身を見失いそうになりながらも自分の心と向き合って生きていく姿を、漆という美しく堅牢な素材を用いて表現しています。融体化という青木作品における新たな展開と、乾漆ならではの優しく奥深い魅力をこの機会に是非ご高覧いただけますと幸いです。

青木千絵（あおき・ちえ）

1981年岐阜県生まれ。2010年金沢美術工芸大学大学院 博士後期課程 美術工芸研究科 工芸研究



領域 漆・木工コースを修了（芸術博士号取得・学長賞）。現在は金沢美術工芸大学工芸科講師を務めつつ、石川県野々市市にて制作を行う。

主な個展は2011年「URUSHI BODY」INAXギャラリー2（東京）、2017年「美術の中のかたち一手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」兵庫県立美術館（神戸・兵庫）、2018年「孤独の身体」現代美術 艸居（京都）などがある。主なグループ展には2014年「ヒトのカたち、彫刻」静岡市美術館（静岡）、2016年「HUBEI INTERNATIONAL TRIENNALE OF LACQUER ART 2016」湖北美術館（武漢・中国）（同2019年）、「蜘蛛の糸」豊田市美術館（豊田・愛知）、2017年「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」ミネアポリス美術館（ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ）、2019年「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」金沢21世紀美術館（金沢・石川）、「Design Miami 2019」Miami Beach Convention Center（マイアミ・フロリダ・アメリカ）など他多数。

受賞歴には2005年日本漆工奨学賞、2019年金沢・世界工芸コンペティション優秀賞があり、コレクションには金沢美術工芸大学（金沢）、ミネアポリス美術館（ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ）、湖北美術館（武漢・中国）、徳島県立近代美術館（徳島）、モリカミ美術館（マイアミ・フロリダ・アメリカ）、伊順芸術空間（瀋陽・中国）、イセ文化基金（富山）がある。

現在、金沢21世紀美術館（金沢・石川）にて開催中の特別展「フェミニズムズ／FEMINISMS」に出展しているほか、2022年には十和田市現代美術館（十和田・青森）のArts Towada 十周年記念「インター＋プレイ」展に出展が予定されている。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けると幸いです。

プレス担当：元林久美子
〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2
motobayashi@gallery-sokyo.jp
Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457